

小学校 第4学年「国語科」シラバス

国語科の領域構成

次の3領域1事項です

- 話すこと・聞くこと
- 書くこと
- 読むこと

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

4年生の目標

○相手や目的に応じ、調べたことなどについて、筋道を立てて話す能力、話の中心に気を付けて聞く能力、進行に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに工夫をしながら話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

○相手や目的に応じ、調べたことなどが伝わるように、段落相互の関係などに注意して文章を書く能力を身に付けさせるとともに、工夫をしながら書こうとする態度を育てる。

○目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。

★評価の観点

- ①「国語への関心・意欲・態度」
国語に対する関心をもち、進んで話範囲を広げたりする。
→行動観察・提出物・読書の様子等
- ②「話す・聞く能力」
必要な事柄について調べ、要点をメモしたり、相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立てて話したりする。
→スピーチ・発表・聞き取りメモ・テスト等
- ③「書く能力」
相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係を工夫して書く。
→作文・感想文・ワークシート・テスト等
- ④「読む能力」
内容の中心や場面の様子が分かるように音読する。場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて想像して読む
→ワークシート・音読・テスト等
- ⑤「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」
文語調の短歌や俳句について、リズムを感じながら音読や暗唱をする。送り仮名に注意して書く。書写では、文字を正しくていねいに整えて書く。
→漢字テスト・テスト・毛筆作品等

	学習する単元の名称	主な学習内容
前	1. 物語をくふうして音読しよう ・こわれた千の楽器 ☆心の動きを分掌に書こう	・物語を読んで場面の様子や人物の気持ち聞き手に伝わるように音読します。 ・気持ちが伝わるように工夫して文章を書きます。 ・段落と段落の結びつきを考えながら読みます。
	2. だん落のつながりをとらえながら読もう ・ヤドカリとイソギンチャク ☆漢字辞典の使い方を知ろう	・漢字辞典の仕組みと三種類の索引の使い方を学び、漢字の学習に活用します。 ・中心となる人物に気をつけて、様子や気持ちを考えながら読みます。 ・広告と説明書について目的と特徴を確かめながら読んだり、違いを比べたりします。 ・つたえたいことの中心を明確にして、文章の組み立てを考えて書くことを学びます。 ・ことわざや故事成語について知り、ことわざの意味を理解します。 ・場面の様子を思い浮かべ、詩を声に出して読みます。 ・伝えたいことをはっきりとさせて話したり、友達の考えを自分と比べながら聞いたりするようにします。
期	3. 人物の様子や気持ちを考えながら読もう ・走れ 4. 目的による表し方のちがいを考えよう ・広告と説明書を読みくらべよう ☆わたしの考えたこと	
	☆「ことわざブック」を作ろう ☆詩を読もう ・ふしぎ ・よかったなあ ☆「今の自分」を話します	
	☆読書感想文を書こう ○画の長さ＜羊＞ ○筆順・字形・筆順と字形＜左右＞ ○組み立て方＜竹笛＞	○画の方向＜麦＞ ○組み立て方＜土地＞
後	5. 人物の気持ちの変化を考えて読もう ・ごんぎつね ☆連詩にちょうせんしよう	・場面の場面の移り変わりに気をつけて、人物の気持ちの変化を考えます。 ・まとまりごとの内容や、何をどのように比んでいるかを考えながら読みます。
	6. ぐらしの中の世界について話し合おう ・ぐらしの中の和と洋 ☆みんなで話し合おう	・話し合いの基本的な進め方を知り、司会を中心にそれぞれの役割を果たしながら話し合う方法を学びます。 ・取材したことを整理し、読み手の興味を引く書き方を工夫して記事を書くことを学びます。
期	7. 取材したことをもとに学級新聞を作ろう	・家族やふるさとを思う心をえがいた、いろいろな本を読みます。 ・短歌を声に出して詠み、言葉の響きやリズムを感じ取り、情景を思い浮かべます。 ・調べたことを整理し、ポスターを使いながら報告します。
	8. 家族やふるさとを思う心をえがいた本を読もう ・世界一美しいぼくの村 ☆「百人一首」を声に出して読んでみよう	
	9. 調べたことをポスター発表で報告しよう ・報告します、みんなの生活 10. わたしたちの生活とロボットについて考えよう ・「ゆめのロボット」を作る ☆「十さいのわたし」 ・文集を作ろう	・文章を読んで考えたことを理由や例を挙げながら自分の考えを書きます。 ・1年間の思い出や未来の自分への手紙を書いて、文集にまとめる学習をします。 ・場面の様子や人物の気持ちが伝わるように、工夫して音読劇をします。
	11. 様子が分かるように音読劇をしよう	
	○筆使い・配列＜おぎ＞ ○かきぞめ＜切手＞	○かきぞめ＜天空・美しい空＞